

中学数学 2 6章 確率 1節 確率 ① 確率の求め方(その1) (教)p.184～185	年 組 番
	名前

1. 下の にあてはまる言葉や数を入れなさい。

1個のさいころを投げるとき、目の出方は全部で 通りあり、そのどの目が出ることも同様に 。したがって、1から6までのどの目が出る確率もすべて である。

2. 次の㉖～㉘のことがらについて、同様に確からしいといえるものを選びなさい。

㉖ 赤、白、黄の同じ大きさの3個の玉が入っている袋から1個の玉を取り出すとき、赤玉を取り出すことと白玉を取り出すこと。

㉗ 1枚の100円硬貨を投げるとき、表が出ることと裏が出ること。

㉘ 1個のペットボトルのキャップを投げるとき、上向きになることと下向きになること。

㉖, ㉗

3. 1個のさいころを投げるとき、奇数の目が出る確率を求めなさい。

$\frac{1}{2}$

中学数学 2 6章 確率 1節 確率 ① 確率の求め方 (その2) (教)p.186 ~ 188	年 組 番
	名前

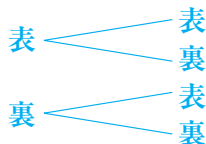
1. 1 から 5 までの数字を 1 つずつ書いた 5 枚のカードをよくきって、その中から 1 枚を引くとき、次の問いに答えなさい。

- (1) 起こりうるすべての場合は何通りですか。 5 通り
- (2) (1)のどれが起こることも同様に確からしいといえますか。 いえる
- (3) 偶数のカードである場合は何通りですか。 2 通り
- (4) 偶数のカードである確率を求めなさい。 $\frac{2}{5}$

2. 100 円硬貨と 10 円硬貨を同時に投げるとき、次の問いに答えなさい。

- (1) 起こりうるすべての場合は全部で何通りですか。樹形図を用いて答えなさい。
 また、そのどれが起こることも同様に確からしいといえますか。

100 円硬貨 10 円硬貨



4 通り、いえる

- (2) 1 枚が表で、1 枚が裏になる確率を求めなさい。

1 枚が表で、1 枚が裏になる場合は 2 通りだから、

求める確率は $\frac{2}{4} = \frac{1}{2}$

答 $\frac{1}{2}$

3. 下の にあてはまる数を求めなさい。

- (1) あることがらが決して起こらないときの確率は である。

- (2) あることがらが必ず起こるときの確率は である。

- (3) あることがらの起こる確率を p とすると、

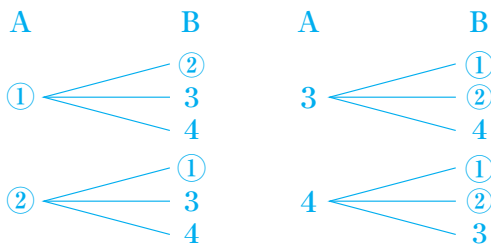
p のとりうる値はいつでも $\leq p \leq$ の範囲にある。

中学数学 2 6章 確率 1節 確率 ② いろいろな確率 (その1)	年 組 番
	名前

教 p.189 ~ 190

1. 4本のうち、当たりが2本入っているくじがあります。A, Bの2人がこの順に1本ずつ引くとき、次の問いに答えなさい。ただし、引いたくじはもとに戻さないものとします。

(1) 起こりうるすべての場合は全部で何通りですか。当たりを①, ②, はずれを3, 4として、樹形図を用いて答えなさい。また、そのどれが起こることも同様に確からしいといえますか。



12通り, 見える

(2) AもBも当たる確率を求めなさい。

AもBも当たる場合は2通りあるから, $\frac{2}{12} = \frac{1}{6}$

答 $\frac{1}{6}$

2. 2個のさいころを同時に投げるとき、次の確率をそれぞれ求めなさい。

(1) 出る目の数が等しくなる確率

起こりうるすべての場合は36通りあり、そのどれが起こることも同様に確からしい。

このうち、出る目の数が等しくなるのは、次の6通りである。

(1, 1), (2, 2), (3, 3), (4, 4), (5, 5), (6, 6)

したがって、出る目の数が等しくなる確率は $\frac{6}{36} = \frac{1}{6}$

答 $\frac{1}{6}$

(2) 出る目の数の和が6の倍数になる確率

起こりうるすべての場合は36通りあり、そのどれが起こることも同様に確からしい。

このうち、出る目の数の和が6の倍数になるのは、次の6通りである。

(1, 5), (2, 4), (3, 3), (4, 2), (5, 1), (6, 6)

したがって、出る目の数の和が6の倍数になる確率は $\frac{6}{36} = \frac{1}{6}$

答 $\frac{1}{6}$

中学数学 2 6章 確率 1節 確率 ② いろいろな確率 (その2) (教)p.191 ~ 195	年 組 番
	名前

1. 1～4の番号がついた4個の玉①, ②, ③, ④を袋の中に入れて, その中から玉を2個取り出します。このとき, ①と②を取り出す確率を求めなさい。

①と②の組み合わせを { ①, ② } と表すことにすると, 玉のすべての取り出し方は,

{ ①, ② }, { ①, ③ }, { ①, ④ }

{ ②, ③ }, { ②, ④ }

{ ③, ④ }

の6通りあり, そのどれが起こることも同様に確からしい。

このうち, ①と②を取り出す場合は1通りである。

したがって, 求める確率は $\frac{1}{6}$

答 $\frac{1}{6}$

2. 2枚の10円硬貨を同時に投げるとき, 少なくとも1枚は表が出る確率を求めなさい。

起こりうるすべての場合は4通りあり, そのどれが起こることも同様に確からしい。

このうち, 2枚とも裏が出る場合は1通りだから, その確率は $\frac{1}{4}$ である。

したがって, 少なくとも1枚は表が出る確率は, $1 - \frac{1}{4} = \frac{3}{4}$

答 $\frac{3}{4}$